



— 第48号 —

発行 盛岡市手をつなぐ育成会  
事務局 〒020-0886 盛岡市若園町2-2  
盛岡市総合福祉センター内  
TEL&FAX 019(624)4832  
E-mail tewotsunagu@morioka-ikuseikai.jp  
HP <http://www.morioka-ikuseikai.jp/>



2月28日「親なきあとは親あるうちに」研修会の様子

## 令和2年度を迎えて

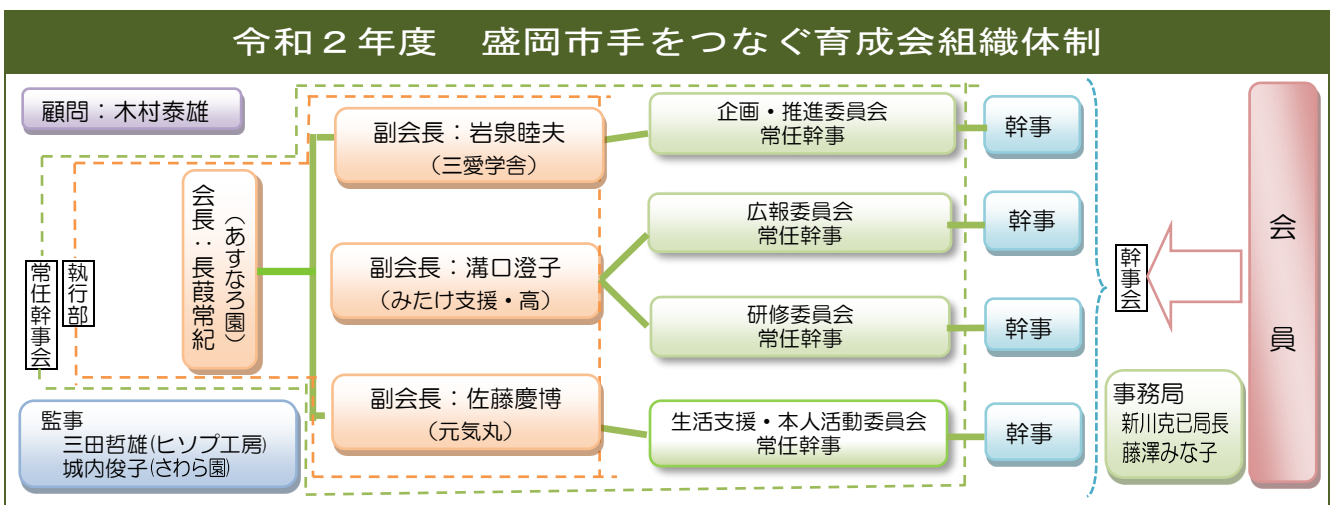
### 会長 長 葭 常 紀



令和2年度を迎えて、例年であれば5月の定期総会において議案が承認され、活動・事業がスタートを切るところでしたが、ご承知のように新型コロナウイルス感染拡大により(1)換気の悪い“密”閉空間、(2)多数が集まる“密”集場所、(3)間近で会話や発声をする“密”接場面、いわゆる三密の回避が国全体で打ち出され、結果として総会は書面による議決となりました。多くの人が待ち望んだ2020東京オリンピック・パラリンピックが来年に延期され、育成会の愛媛での全国大会、青森での東北ブロック大会も中止、県内においては岩手県障がい者スポーツ大会、フライングディスク交流大会、盛岡市障がい者スポーツ大会の中止も決定されました。当会の行事でも皆さんが楽しみにしていたわんこそば大会が中止になるなど、今まで当たり前に行われていた日常の行動が命の危険をもたらすことにつながろうとは思ってもかけない

ことで、私たちの生活は瞬く間に一変いたしました。この感染拡大を断ち切るには、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒、咳エチケット、換気の励行等、一人一人の取り組みが大事になると思われまます。幸いにも、岩手では今のところ感染者ゼロ(6月10日現在)ということで、日本はもちろん世界においても「岩手の奇跡」といわれております。今がとても大事なときです。新型コロナウイルスのワクチン開発までは感染防止に心がけながらも新しい日常を形成していかなければならないと思います。6月からは「三密」を避けての本人活動が動き出します。秋に予定の成人を祝う会やふれあいレクも工夫し実施したいと思っております。また、盛岡市自立支援協議会で進められている令和2年度末が整備目標の「地域生活支援拠点事業」の動きも注視をしていかなければならないと思っております。子どもたちにとって学校の休校や外出禁止、福祉事業所での働く機会の減少などの多くの困難がおきているときだからこそ、同じ子を持つ仲間の活動がとても大事なのだと思います。

令和2年度 受諾の他団体役職一覧	
《盛岡市関係》	《盛岡地方振興局関係》
盛岡市社会福祉審議会委員 盛岡市個人情報保護審議会委員 盛岡市障がい者自立支援協議会委員 盛岡市障がい児教育推進協議会副会長 盛岡市障がい者スポーツ大会副大会長	盛岡広域障害者自立支援協議会委員
	《地域関係》
《盛岡市社会福祉協議会関係》	盛岡地区福祉有償運送市町共同運営協議会会長 岩手県手をつなぐ育成会理事
盛岡市社会福祉協議会評議員	



令和2年度 各委員会名簿及び活動内容			
会長：長葎常紀			
委員会	活動内容	担当役員	担当常任幹事
企画・推進	はがきリサイクル ふれあいレクリエーション 賛助会員募集 成人を祝う会	岩泉睦夫 (副会長)	吉田貞子 (三愛学舎) 後藤光代 (中央高校) 菊池純子 (クリーントピアいわて)
広報	広報作成	溝口澄子 (副会長)	阿部眞喜子 (さわら園)
研修	茶話会 施設見学・講演会	溝口澄子 (副会長)	熊谷和恵 (ちゃちゃまるの家) 高橋ゆかり (江南義塾)
生活支援・本人活動	げんき塾・生け花教室 カラオケサークル 相談事業・キャラバン隊 音楽療法・一時介護 権利擁護・ボウリング大会 わんこそば大会	佐藤慶博 (副会長)	長葎千恵子 (県障がい者110番相談室専門相談員) 工藤宏行 (盛岡市基幹相談支援センター所長) 藤澤みな子 (あすなろ園) 高橋徳行 (あすなろ園)

※ バザーについては検討中です。

## 令和2年度 育成会の活動 始まります！

～ 各委員会の常任幹事さんに、今年の抱負をお伺いしました ～

### 企画・推進委員会

企画・推進委員会では、秋頃にふれあいレクリエーション・成人を祝う会の開催を予定しています。ふれあいレクリエーション、内容は未定ですが、三密にならないような楽しい企画を検討中です。成人を祝う会は、11月15日に盛岡八幡宮で開催予定です。皆様の多数のご参加をよろしくお祈りします。通年で、生協各店舗でのリサイクルはがき回収の活動も行っていますので、ご協力よろしくお祈りします。

### 研修委員会

研修委員会の主な活動は毎月の茶話会と秋の施設見学、講師を囲んでのミニ学習会などです。毎年、施設見学は雰囲気の違い施設を午前と午後に分けて見学し、お昼も福祉施設で運営しているカフェなどで食べるようにしていました。今年は先の状況がまだ見通せないで研修委員会の中でも決めかねています。決まり次第お知らせします。長い自粛生活が解除され、取りあえず出来る事から始めたいと思い、7月16日(木)10時から久しぶりの茶話会を開催します。自粛生活が続いた時の子供達の様子など聞かせて下さい。

<今後の活動予定>

\*茶話会 7月16日(木)・8月20日(木)・9月17日(木)・10月15日(木)

毎月第三木曜日、10時から2時間位。マスク着用をお願いします。

\*施設見学会は未定

### 生活支援・本人活動委員会

生活支援・本人活動委員会では、1～2か月に1回ペースで親と子の高齢に伴う諸問題に関しての情報交換と事業所見学を実施いたします。また秋以降に福祉講演会の開催を計画しております。偶数月にはサークル活動として生け花&お抹茶(親もOK)や輪投げを実施、1月と3月には親子で楽しむ音楽療法(楽器・リズム)を実施する予定です。知的障がい・発達障がい理解のためのキャラバン隊「Peer」の出前講座や一時介護事業(気軽に活用を!)、相談も実施しております。また、ボウリング大会やわんこそば大会も予定しております。

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては延期または中止となる場合がありますのでご了承ください。

新型コロナウイルスは社会・経済、そして私たちの暮らしにも大きな変化をもたらしました。このような状況の中、施設や事業所など福祉の現場はどのような影響を受けているのでしょうか。盛岡市基幹相談支援センター所長 工藤 宏行さんにお話を伺いました。

#### Q1 緊急事態宣言後の事業所の様子は？

・感染対策で日常的な利用者ではない方(短期入所や日中一時だけ利用とか)の利用を遠慮いただいたり、検討した所があるようです。入所系では面会制限やイベント、外出活動の制限・自粛もしている様です。放課後児童デイサービスは事業所によっては、学校より密になるぐらい忙しかった所もあつた様ですし、逆に利用者確保について相談にいらした事業者もありました。通所系は見学等の制限は所によってあつたようですが、事業所内での感染症対策を頑張っていたようです。

#### Q2 事業者、利用者からの相談は？

・当センターとしては、直接的に「困ってま

す」は、現在ないですが、親が感染したら?、事業所で感染が出たり、対策で使えなくなったら?という心配の相談がありました。コロナの直接の影響とは言えませんが、やや不安定な様子であったり、特別な相談ではないが連絡の頻度が高くなっている当事者の方が見られるようになってきました。今後、地域の景気・対策の動向が影響していくのではと考えています。

#### Q3 福祉施策・事業所経営の今後について

・一般就労については、今後の景気の影響を強く受けると思いますが、一般と同様に分野や職種によって格差が出ていますし、今後も大きくなると思います。A、B型についても、影響が全くない



ところ、直撃して大幅減収のところ、かえって仕事が増えて忙しかった所など……。世の中の新しい生活!?!の変化で職種や取り組み様も変わっていくのでは……。事業所でマスク作ったり始まっていますよね。施策的には、感染予防・社会的距離を取るための事業所に対する当面の緩和措置がそれぞれ出ています。例えば直接訪問が電話でOKとか、通所が、事業所からの訪問や様子伺い、助言でOKとか。しかし、入所等で感染が発生すると、病院確保・物理的隔離・職員体制など課題も多く、東日本大震災の時に実施した他地域からの応援も困難など医療・介護のように体制崩壊が心配です。そのため、今回のコロナで現在の利用者を守る対応と新しい利用者を支援あるいは確保する対応のバランスのとり方が事業所経営に問われるかもしれません。盛岡市としては、それぞれの資源が特徴持って展開したり、新しい事業を起こす地域状況を守りながら、現在検討されている地域生活支援等拠点の整備が大事なポイントになるのではないかと思います。緊急時に現在の所属・利用先に大きく左右されない事や格差が生まれない様な体制と親の高齢化に伴う本人の生活の受け皿づくりと体験

しながらの移行が期待されると思います。

#### Q4 保護者へのアドバイスをお願いします。

・盛岡市の場合、他の市町村に比べるとサービスの選択肢は多いと思いますが、すべてに十分というわけではなく、特にサービスや本人の様子によって格差が大きいと思います。また、サービスや制度の情報を得るのも所属している場所や個々の家庭の事情で大きな格差があります。ぜひ、保護者会にはこれらの格差を埋めるような活動を期待したいと思います。抱えている子どもさんや家庭事情、利用されているサービスや所属は違っても困り感や情報を共有できる事が大切ではないでしょうか。生まれたばかりや幼児、学校へ通う時期、社会人になる時期、親の介護や親亡き後……。今の抱えている問題はみんなが通る道だと思います。今回の感染症騒動はもし家族が、事業所が……。を考える契機で、それはすべての保護者さんに感じ方の違いはあれ、共通するのではないのでしょうか。それに応えられる盛岡か、そうなるためには何が必要かを一緒に考えていただけると幸いです。

## 研修会「親なきあとは 親あるうちに」

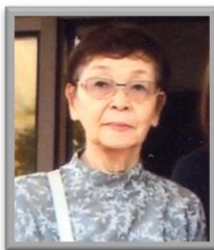
令和2年2月28日に開催の研修会は、親なきあとに子どもが生きていくために何が必要かを、親が生きているあいだに準備できるところから少しずつ始めるきっかけづくりにと開催いたしました。

研修1の講師・渡部伸氏（東京都・親なき後相談室代表）は行政書士で自ら知的障がいを持つ子どもの親として常日頃、親なき後も知的障がいのある子どもが安心して地域の中で暮らし行かれるだろうかという不安から、何があれば生きていられるのかを考え、自らの実践をとおして「親なき後相談室」を立ちあげた方で、それだけにテーマ『障がいのある子の「親なき後」は「親あるあいだ」の準備』の内容も、・親なき後のお金の管理・住む場所・身の回り日々の生活のこと・課題と現状を知り考えること、制度の活用等具

体的にお話しいただき、一つ一つ胸にストーンと落ちるものばかりでした。

研修2の講師・阿部孝司氏（ヒソプ工房所長）からは、「グループホームの現状とこれから」をテーマに、グループホーム制度が生まれた背景から現状、グループホームを活用して地域で暮らし続けるために必要なもの・こと、これからはチームで支える暮らしをつくるなど、分かりやすくお話しをいただきました。今回は新型コロナウイルスで研修会の開催をどうしようかと考えましたが、机・いすの事前消毒、マスク着用、入室前の手の消毒、間隔を開けての席の設定を行い実施いたしました。170名の参加を得て無事終了できましたこと感謝いたしております。

生活支援委員会



### 訃 報

長年にわたり当育成会に多大なる貢献をされた元副会長の菅原せつ子様が5月25日に逝去されました。享年86でした。ここに謹んで感謝と哀悼の意を表します。

### ◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

今年度も広報「さわらび」を通して育成会の活動を会員の皆さんにお知らせしていきます。一年間、よろしく申し上げます。広報委員会